

「栗山町ハサンベツ里山地の水辺環境の復元と創出」

平成13年から、20年計画の実行委員会を立ち上げ、栗山の街の皆さんとともに「童謡がみえる里山づくり」を行い、13年目を迎え、里山にはたくさんのホタルやトンボや魚が復元し、穏やか農林地の景観が整い、体験学習に訪れる子どもたちは年間2,000名以上にのぼるようになった。一方、実行委員会は10数年を過ぎ、世代交代期にさしかかっており、担い手不足が近々の課題になっている。そこで、平成25年度にあたっては、里山地の将来を見通した、環境整備と新たな連携組織づくりを考えて、事業を進めていくことを計画した。

ハサンベツ里山地では、森林環境とともに里山環境の要になっている水辺環境を整え後世に残すことが重要課題になっているが、一昨秋、洪水によって、火薬庫の沢と林原の沢が土砂浸食にあい、崩壊し下流に大量の土砂が流失し、これに対処する必要性が加わるようになった。平成18年度から20年度にかけて行った市民参加による玉石組み砂防ダムや魚道づくりの経験を下に、栗山町や栗山町民に呼びかけ、治水と環境を両立させる整備を実施した。

そのために、治水と両立させた、水生生物をシンボル化した生息地の保全と創出を事業の目標とし、官民一体の事業を推進した。具体的には次の5つの事業として計画・実施した。①ニッポンザリガニの生息地保護および生息調査実施、②エゾサンショウウオ、エゾアカガエルの生息地保全および卵塊調査の実施、③ヘイケボタル生息地の保全拡大および観賞会実施、④いろいろなトンボが棲める多様な水辺づくりおよび小学校理科現地学習の実施、⑤サクラマスやスナヤツメ・エゾウグイ等が産卵できる礫が堆積する川づくりとして行った。このことにより、ハサンベツ川流域全体の状況を把握することができ、当面、土砂流失が甚だしい、火薬庫の沢への魚道設置と河床低下防止と遊水池整備により土砂コントロールを行い、瀬と淵がつくられていく沢一帯を巡る川づくりへ向けての導入工事を実施することができた。

以上、今年度の事業が、平成13年から、20年計画として実行委員会を立ち上げ行ってきた里山づくりのターニングポイントになる核事業となり、ハサンベツ里山地の未来の有り様を決定づけるものになった。

また、ハサンベツ里山地は北海道の石狩低地帯におけるヘイケボタルやエゾサンショウウオが安心して暮らしていける、最大のエリアとして保護・保全されていくことが期待される。

さらに、この事業が栗山町民が中心になり、町行政とともに、多くの手作業によって進められる手法をとったため、今後、栗山町の総合計画に位置付けられ、官民一体の連携組織を形づくっていくものになっていくことが期待される。



エゾアカガエル・エゾサンショウウオ卵塊調査



ニッポンザリガニの沢土砂流失止め工事補修



ニッポンザリガニ生息調査



水生生物生息調査



水辺のいきもの調査・観察会



林原の沢土砂流失防止止め石組み市民工事